

令和6年度第3回昭島市総合戦略推進委員会

議事要旨

日時：令和6年11月5日（火）

午後6時30分～7時45分

会場：庁議室

次 第

- 1 開会
- 2 議題
 - (1) 令和5年度総合戦略における具体的な施策の進捗状況報告及び評価
 - (2) 令和6年度（令和5年度事業）評価報告書について
- 3 その他
- 4 閉会

配布資料

資料1 令和5年度・令和6年度 栗田工業ラグビー部との連携事業

出席者

委員長代理・・・橋本久美子副委員長（立川公共職業安定所）

委 員・・・和田幸一（日本電子株式会社）、小野修（昭島緑郵便局）、
松崎秀雄（公募市民）、久保充司（公募市民）

欠席（松本祐一委員長（多摩大学総合研究所）、武藤茂（昭島市商工会）、桑原圭子（ジェイコム東京多摩局））

事務局・・・池谷企画部長、村山企画政策課長、薬袋子ども未来課長、谷津子ども育成支援課長、曾根子ども家庭センター担当課長、中村企画調整担当係長、板谷主任

1. 開会

○令和6年度第2回昭島市総合戦略推進委員会議事要旨（案）につき、全会一致で承認を得た。

2. 議題

議題（１）令和５年度総合戦略における具体的な施策の進捗状況報告及び評価

○事務局より補足説明

以下の内容につき、実績を訂正する。

（ア）基本目標３の基本施策（２）妊娠・出産の希望をかなえる支援の①から③の事業について、担当課を「子ども家庭センター担当」に変更（４月からの組織改正により）

（イ）①にんしん・育児 SOS 相談事業の令和５年度の相談件数について

・「妊娠に関する助産師相談支援」：令和４年度相談 379 件

令和５年度相談 373 件

・「育児に関する心理師相談支援」：令和４年度 277 件（助産師・保健師対応）、

454 件（心理士対応）

令和５年度 197 件（助産師・保健師対応）

478 件（心理士対応）

（ウ）基本施策（３）安心して子育てできる環境づくり⑤子育て短期支援事業の「ショートステイ利用者数」の令和５年度実績数を年間 182 人から年間 111 人に変更。

●基本目標３ 結婚・出産・子育ての希望をかなえる

（１）結婚の希望をかなえる環境づくりに関しては、基本目標１の再掲であるため省略。

（２）妊娠・出産の希望をかなえる支援

【松崎委員】

④多子出産お祝い事業について、令和５年度は目標に及ばず一昨年度と比べて減少傾向だが、複数の子を出産し子育てしていこうという機運が起きていない現実がある。出産への環境作りとしてのお祝い事業だと思うが、本質的な解決の対策をしていかなければ、変わっていかない。子育てに関する啓発活動のようなものに取り組むほうがいいのではないかと感じるがどうか。

【子ども育成支援課長】

ここで 10 年目を迎えた事業。以前は第 1 子が生まれたことへのお祝いの意味合いで地域の特産品として本藍染のガーゼハンカチをお渡ししていた。今は多子出産へのお祝いとなったが、今後はご指摘の通り本質的な部分について検討していかなければいけないと考えている。

【小野委員】

今般、出生率について減少傾向の報道がある。基本施策（３）にも絡んでくることだが、子育てしやすい環境として、子どもが病気等の際に突発的にでも預けられる仕組みが必要。国が先頭立って支援をしていかなないと市町村単独では難しいこともあろうかと思うが、そのような仕組みを作ってもらえると安心して働け、子育てできると思う。

【子ども育成支援課長】

病児・病後児の保育に関しては、(3) ⑥の病児・病後児保育という制度がある。事前に登録が必要だが、病児保育「はぐみ」という保育室で、朝8時から午後6時までの間、病気で通園・通学ができない子どもを預かる制度がある。病後児保育は、実際には解熱しているが、もう数日様子をみたい場合に預けられる制度。

【小野委員】

使用者側から探しに行かないと、制度・仕組みになかなか辿り着けない現状があるようだ。病院にそういう制度があるということのチラシを置く等の手法がいいのかどうかかわからないが、広く周知できる仕組みがほしい。

【久保委員】

(2) ③産後ケア事業について、実績が100%となっているが、昭島で出産した人の100%がこの産後ケア事業を受けたという理解か。そのうえ利用者が増加しているということは、昭島市の出生率が上がっているということか。

【子ども家庭センター担当課長】

この100%というのは、ケア事業を希望した人の100%が事業を活用しているという意味。前年度で約40%、今年度上半期の出産届を出した方の50%が利用している制度。

【久保委員】

申込者の100%が事業を活用できるというのはある意味当たり前であって、もともとの指標が良くない。件数にすると何件の利用なのか。実態内訳があった方が議論しやすい。

【子ども家庭センター担当課長】

訪問型540件、デイケア型285件、宿泊型141件の利用。宿泊型はいわゆるワンオペ育児になってしまう方とその子どものケアを行うケアである。

(3) 安心して子育てできる環境づくり

【和田委員】

①保育所入所待機児童数の解消についてだが、コロナウイルス感染症が5類へ移行になった影響もあり、待機児童数が増えたと説明にある。昭島駅北側マンションの建設等で、子どもの数が増えることも今後考えられるが、具体的に待機児童数を解消するような働きかけをしているのか。

【子ども育成支援課長】

昭島市北口にできたマンション481世帯の入居が9月末から始まった。その1階に保育園が新設される予定で、令和7年4月1日に開所となる。少子化とはいえ保育需要は高いことから、その他にも、園長会を通じて待機児童を少しでも解消できるように話し合いを進めている。

【和田委員】

企業にとっては出産・育児休業から復職に向けての影響が大きい。戻ってきてくれるだろうと思っていいたら延長希望といわれると、やはり影響がでてしまう。

【子ども育成支援課長】

以前は0歳児で預け少しでも早く復職という動きがあったが、今は育児休業法で、1歳児になるまできちんと休業できるということになったので、1歳児の入所希望が局所的に多くなり、待機児童が発生してきているのが現状。継続して待機児童解消に取り組んでいきたい。

【久保委員】

幼稚園・保育園の子どもたちとシニアの世代間交流の取組はなされているか。

【子ども育成支援課長】

園の特色や運営法人の考え方による。法人の特色として世代間交流を行っているところはあるが、昭島市としてマッチングは行っていない。あくまでも民間の対応である。

【小野委員】

①学童クラブ待機児童の解消についてだが、昭島市の学童は民間委託か。

【子ども育成支援課長】

民設民営の場所が1ヶ所、あとは公設民営で運営自体は委託している。

【小野委員】

先ほど世代間交流の話もあったが、小金井市の学童は小学校4年生以上の学童を卒業した子どもが学童OB会に入り、現役学童児童と交流し、キャンプ・スキー・運動会等の年間行事を通して親子ともに顔のわかる関係で、地域全体で子どもを見守っている。今からOB会を作って急にどうこうということは難しい話だが、民間委託をするにあたっては保護者の方といろいろな場を設けながら、やりとりをしていくといいと思う。民間委託だからできる・できないの部分が少なからずあると思うが紹介した。

【子ども育成支援課長】

②放課後子ども教室が小学校4年生からの主な居場所となっている。放課後子供教室は地域の方の有償ボランティア的な形で見守り・運営が行われている。今課題になっているのは、学童クラブと放課後子供教室の連携という委員からご指摘いただいた部分で、運営母体が異なることからなかなかすぐに形にしていくことは難しいが、考えていかなければならないと認識している。

【松崎委員】

⑩教育・発達総合相談についてだが、令和5年度は1345件と相談件数がすごく増えている。相談内容としてはどのようなものがあるのか。また、件数増に対応できているのか。

【子ども家庭センター担当課長】

ひきこもり対応等ではなく、未就学児に対しての事業である。例えば、静かに座ってられない、保育園で友達とのトラブルが多い等、少し心配のある子どもの相談。相談件数が増えてきた要因としては、いわゆる発達障害等が世間的にも知られてきたことや、この部署ができてから5年が経過し相談場所が周知されたことによると考えている。

サポート側の人数はほぼ変わっていないが、この5年間でシステムが整いスキルも上が

っており、相談件数の増加にも対処できているといえる。様々な相談があり、解決というよりは保護者と面談したり、子どもの様子を見たり、臨床心理士が出向いて集団生活の様子を見ることもある。いくつかのアセスメントを経ながらそのお子さんにとって一番良い方法を模索する。例えば、児童発達支援を受けることを提案し、家庭でできる対応をしていく中で、保護者が子どもの特性を理解してよい方向にもっていけることもある。

特性が強い子の場合には、学校教育部指導課と一緒に就学へのサポートをしながら支援機関に繋ぐことも行っている。

【橋本副委員長】

日常的にできる支援はもちろんのこと、早期の相談によって専門機関につなぐこともできるということ。

【久保委員】

⑭の子ども食堂推進事業だが、13 団体が目標になっているがどういう意味合いで 13 とされているのか。

具体的な事業内容は何か。金銭的に支援しているのか。

令和5年度の課題欄に「活動回数が増え、且つ新規設立団体があるが、補助金の予算確保が課題」とあるが、具体的にどういった取組をすることによって目標に近づけていくのか記載がない。全般的に言えることだが、課題欄には課題があってそれに対してこうしますと併記してもらえると評価しやすい。

【子ども未来課長】

この目標値は、学校の地区に1つずつ設置ということで学区数と同数の13を目標にしてある。

【子ども家庭センター担当課長】

事業内容としては補助基準に基づいて子ども食堂運営団体に補助金を出している。

【久保委員】

団体数を増やしていきたいのならば、現存の6団体にインタビューし引っかかっている部分を中心に市がサポートすることによって、団体数も増えていくのではないかと。昭島市の支援が明確になれば、子ども食堂のようなことを考えている団体が集まってくる等活動が活発になっていくと思われる。そのような動きがあれば記載してほしい。

また、子供食堂を増やすことによって、どのような効果がありどのような状態に持っていきたいのか。手段が目的化しがちであるので紐解きなおす必要がある。

【子ども家庭センター担当課長】

ヒアリングに関しては、今年度、担当者が現存の子供食堂に行き御用聞きを行っており、大きな予算をかけずとも状況の改善が見込まれる。

先ほど小学校区域ごとに1食堂の設置を目標としている話があったが、食事の支援もさることながら、身近なところで顔見知りができたり、互いを認識し相談ができたりということを目指しているのだから、なるべく近い地域で13地区子ども食堂があればいいと考えてい

る。

【久保委員】

交流を大事にすることが目的なのであれば、学区にこだわらずとも隣あった学区間で、違う学校のお子さんたちとも交流できます等の観点でPRはどうか。設置数を減らすことによって、料理の質等に対する支援を手厚くしてあげられるとか。動き出しながら機動的に対応していくことも大切で、ヒアリングする目的はそのような意味もあると思う。

【松崎委員】

子ども食堂運営団体は6団体とあるが、市に公認されるまでに手続きや設立までの過程があると思う。実際の活動としては、もう少し多くの団体が子ども食堂運営のようなことを行っているのではないのか。

【子ども家庭センター担当課長】

補助金を支出するにあたっては、要綱等による一定のルールがあり、それにあてはまらない団体がある可能性はある。市としては、より多くの団体に使ってもらえるように今後も市報等で周知を行っていく。

【松崎委員】

⑮リーダーズクラブの育成についてだが、リーダー講習会参加者数の小学生と中学生の目標値の乖離はどうしてなのか。

【子ども未来課長】

小学生リーダー講習会は、地区活動の一環でウィズユースというボランティアの方が13の小学校で行っている。対して中学校については市の青少年委員へ委託をして、一事業として行っているのので、どうしても参加人数に差が出てしまう。

中学生リーダー講習会については20人から30人の規模で参加者募集をしているので、それ以上の参加者にはならない。中学生になると、クラブ活動におけるリーダー等様々な育成の場があると考えているので、募集人数も実際の参加人数程度に限定されているのが実態。小学校にはそのような場がないので、地区活動等において育成をしている。

【久保委員】

ハードルが高すぎるとなかなか参加しづらくなるが、上の年齢の子が年下の子の面倒を見て繋がっていくというような昔から行われているいい取組であると思う。

【和田委員】

⑯の青少年フェスティバルの開催についてだが、未来を担う青少年が自ら企画・運営し、地域の交流と連帯の場を創造する機会をもつということでもっとよい取組だと思っている。コロナ禍の中で3年間連続中止になってから立上げなおすのは大変だったはず。具体的な活動・取組を教えてほしい。

【子ども未来課長】

青少年フェスティバルを開催するに当たっては、高校生以上24歳までの実行委員を募集し、その中で企画運営を進めていく。開催会場はFOSTERホール・市民会館公民館で、前庭・

大ホール・小ホール・公民館・駐車場になる。出店の希望やイベント内容を企画して、各企画にどれだけ予算が必要なのかということも含め青少年の実行委員が中心になって考えてもらい、指導しながらイベントを組み立てていく。今年については11月24日（日）に開催するが、実行委員は学校が終わって夜7時半ぐらいから1週間に1回程度は集まり本番に向けて準備を進めている。

令和5年度実施にあたってはイベント実施にブランクがあったため、実行委員経験者が皆社会人として就職してしまっていたが、ボランティアで後進の指導や手伝いに来てくれた人もいた。

【和田委員】

自分の会社のことだが、今年設立75周年ということで初めて家族に対して会社開放デーを行った。今まで全くやってなかったことを自分が実行委員としてやらせてもらったが、試行錯誤で大変だった。青少年フェスティバルもさぞかし大変だったろうと推察する。

【久保委員】

小学生の時自分の子どもも青少年フェスティバルに連れていった。友達同士でも行って楽しんでいた思い出がある。今回、運営側が高校生・大学生の青少年を中心としたイベントだと初めて知った。大変いい取組だと思う。先ほど議論したリーダーズクラブに参加してもらったりできそう。

【子ども未来課長】

小学生・中学生のリーダーが手伝ってくれることもある。

【久保委員】

子ども食堂をイベントの場に出店してもらおうとか、何かアイデアをもらおうとかの可能性もあるのではないかな。少子化の中、限られたリソースを有効に活用していくとしたら、どんどん横串をさして有機的に結び付けて相乗効果を狙っていかないといけない。分断したままだと1つのコンテンツを維持していくこと自体が難しくなってきたり、結局維持していくことに注意しすぎ、そもそもの目標を見失いがちになる。フックになるような取組をベースにして、横串をさしていくといいのではないかな。

毎年全く同じ内容でやる必要もないだろうから、市がバックアップしながら近隣市で類似のイベントがあるようであれば交流したりすることもいいと思う。若い担い手・リーダーの子どもたちを育てていくことが、昭島という地域を引っ張っていく人材育成に繋がると考える。

【橋本副委員長】

事業を有機的に結びつけていくことで、本来単体であれば10のところを100になっていくというような話だった。それぞれの課の仕切りもあるだろうが、今の意見を参考にしつつ、推進していただきたい。

【松崎委員】

未来の日本の国を作っていく子どもたちに公的意識や昭島の良い伝統を教える場があれ

ば、将来必ず芽が出てくる。指導する先生も含め、人材育成をするといい。

【小野委員】

子どもへの経験、教育という話題だが、今年の産業まつりにおいて、昭島市の産業活性課が「子どもお仕事体験」という企画をし、弊社も参加している。11月上旬に事前登録受付開始だったが、受付1日目の午前中に全ての体験が定員に達したときいている。先ほどの青少年育成という部分においては、お仕事体験というのはもちろんだが、参加企業側も地域との交流を図る意味で楽しみにしている部分がある。

できれば次年度もこういったことで地域との交流を図れるよう、継続的に実施いただきたい。弊社に限らず、市内企業でも参加希望があると思う。子どもたちに小さいうちから働く体験をさせることがいいのかどうかという議論はあるかもしれないが、まずは興味を持ってもらう良い機会となる。変な話だが、今報道されている闇バイトについても、結局就労したいという気持ちがあるのかどうか判らないが、結果的に金銭的に困ってSNSから危ないバイトを探してしまうということがあると聞く。働くことの意味を小さい頃から学ぶことができれば、いくらか違ってくる可能性があると思う。

また、アメリカの大統領選挙が始まったが、有権者が投票へ行くと同行した子どもたちに「将来の有権者」というシールを貼って、子どもたちに小さい頃から選挙というものがあるのかを理解させているときいた。先ほど将来の担い手という話もあったが、そういった点では小さい頃から将来に関する教育ができるというのはリーダー教育に繋がる。

議題（2）令和6年度（令和5年度事業）評価報告書について

○事務局より報告書の主な内容、スケジュールについて説明。

・「令和6年度（令和5年度事業）評価報告書（案）」は、主管課の自己評価と第1回～第3回委員会の意見を反映して作成。作成後、全委員に確認いただき、修正等を行ったものを最終版とする。

・報告書（案）は、議事要旨（案）と一緒に12月初旬を目途に委員全員へ送付。

事務局から資料を送付後、2週間程度の期間で確認頂きたい。最終的に委員長に確認頂いた上で、委員会としての報告とする。（2月の総務委員協議会にて報告予定。）

3. その他

○事務局より基本目標2（3）「栗田工業ラグビー部との連携事業」について報告。

・前回の委員会において基本目標2（3）「栗田工業ラグビー部との連携事業」について、令和5年度の事業実績数を0事業として報告していたが、改めて全庁調査を行ったところ令和5年度の事業数は3事業であった。評価報告書では事業数を修正したうえで報告する。令和5年度及び令和6年度の事業内容を資料1として配布したので確認いただきたい。

【事務局 企画部長】

本日をもって全委員が集まったの総合戦略推進会議は終了となる。報告書の確認作業は残っているが、令和5年7月の第1回の会議からはじまり、長期にわたって計画の検証・評価に携わっていただき感謝する。本会議で議論された点は、庁内においても重要な課題として捉え、次年度以降も引き続き取組んでいく。また、次期総合戦略の策定においても、重要な項目として積極的に引き継いだうえで、さらに議論を深め委員各位からの貴重なご意見を反映し、昭島市のさらなる発展に繋げるため、引き続き総合戦略の施策の展開・見直しを行いながら努めていく。引き続きご指導をお願いしたい。

【橋本副委員長】

以上で第3回総合戦略推進委員会を終了する。